

扶桑皇統記圖會

後編

一上

遠

2505

13-7



遠
2505
巻13-7



扶桑皇統記圖會後編叙

本報 天武天皇の御事。今に至りて
千有餘年。聖賢の君子。高代知
とて民を撫。天地の徳を悠久。此
石の崖。其の。悦び。皇國
と。天地の。時を。一
して。地。山。

皇統記圖會後編卷一

序

浪華好萃堂主人著編
同柳齋重春先生画圖

扶桑皇統記圖會

後編
全七冊

愛知書肆

松屋書店藏

帝年を以て考ては二十有餘年の治
 亂得主人信の善惡を以てして其の
 天變地好を以てして其の善惡を以て
 大成を以て既にして其の善惡を以て
 一いつ。僅二輯して其の善惡を以て
 定下の善惡を以てして其の善惡を以て
 一いつ。僅二輯して其の善惡を以て

余は其の野亭の園を隔てて一而此
 識を以て其の善惡を以てして其の善惡を以て
 遅くせば其の善惡を以てして其の善惡を以て
 速くせば其の善惡を以てして其の善惡を以て

東都
 松亭主人 頌





皇統元國會後高朝卷一

第四



皇統元國會後高朝卷一

第三

誇君龍亡賢臣
 暫時雖在其位
 暉其威上天責
 其惡羅異病
 而耳青蛇淨
 藏持念羽傳
 世俗不知信偽

藤原
 時平



浦島
 太郎

万葉
 少人
 何れも
 休むれども
 新しき
 ねむり

陽成帝在
愛嬪也
妬婦奸計
一朝露
即製
筑波根之
降後
落浮水
無能川
慮曾積而
闕止成
奴苗



皇統紀圖會後篇

五

黃門行平
忽起心兵
戲言出思
和歌
發情
不邪
不嬌
有才有名
繪島風韻
全非鄭聲



皇統紀圖會後篇

五

扶桑皇統記圖會卷中總標目後篇

光二天皇御治世
於阿隈河官軍與夷賊戰
金窪兵大勇力揮つて京軍と責破る圖
大洋益立敗軍之條
大洋益立不覺之條
奧刃兵乱征將下向條
瑞雲禪師化度安達條
苦肉計畧安達燒敵柵條
不破内親王母子流罪條
蝦蟇合戰怪異之條
早良親王譴罪憤死條
秋最澄開基延曆寺條
峯延法師退治大蛇條

一上
金窪膽沢強勇力戰
金窪義心贈千敵曹
桓武天皇御即位
安達八郎又心術と以て空獄と破り却て敵方小降参る圖
東征使凱陣賞罰
宇左八幡宮託宣并神傳
山城國長岡郡都經宮
早良親王の命と受て継人竹良密小種繼と射る圖
秋最澄開基延曆寺條
峯延法師退治大蛇條

一上
光二天皇御治世
於阿隈河官軍與夷賊戰
金窪兵大勇力揮つて京軍と責破る圖
大洋益立敗軍之條
大洋益立不覺之條
奧刃兵乱征將下向條
瑞雲禪師化度安達條
苦肉計畧安達燒敵柵條
不破内親王母子流罪條
蝦蟇合戰怪異之條
早良親王譴罪憤死條
秋最澄開基延曆寺條
峯延法師退治大蛇條

一上
光二天皇御治世
於阿隈河官軍與夷賊戰
金窪兵大勇力揮つて京軍と責破る圖
大洋益立敗軍之條
大洋益立不覺之條
奧刃兵乱征將下向條
瑞雲禪師化度安達條
苦肉計畧安達燒敵柵條
不破内親王母子流罪條
蝦蟇合戰怪異之條
早良親王譴罪憤死條
秋最澄開基延曆寺條
峯延法師退治大蛇條

卷之二

峯延法師退治大蛇條

奥刃夷賊蜂起官軍敗績
鞍馬の峯延法師のつて大蛇を退治す條
坂上田村九遇延鎮條
田村九武勇討大熊九條
重而東征使下向條

毘沙門地獄の二尊雲中小頭のま田村九軍援の圖 其二
延鎮語兩股士奇特
乾臨閣御遊諸繼昇進
平城天皇御即位并讓位
天皇賀茂齋院御幸
淺山玄吾道益難入水
淺山玄吾湖水小舟を漢舟の爲小命を助くる圖

淺山過入隱室遭厄難
無頼の惡僧隱室と見らしと淺山と擒小まる圖
阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

無頼の惡僧隱室と見らしと淺山と擒小まる圖
阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

無頼の惡僧隱室と見らしと淺山と擒小まる圖
阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

室戸の菴室小惡龍現空海と試す圖
空海師入唐求法
空海童子小現空海小奇瑞と見せり圖
空海師歸朝鎮難風
東大寺蜂怪南圓堂建立
清滝川と隔て空海額の文字と書圖
東寺賜空海西寺賜守敏
嵯峨天皇御讓位
女人禁帯を犯して空海の母種々の怪異小の圖
母公阿刀氏望登言向野山
山中怪異慈尊院之條

以五筆書詩水上題詩條
投筆并隔溪書額條
高野山開發伽藍造立事

空海守敏法力優劣條
守敏空海初兩爭行力條

開王午宮浦島老死條
小野篁流罪之條
桓貞親王隱謀露頭條
從豐後國獻自龜

放巨龜浦島到蓬萊
浦島か子蓬萊小至遊宴歡集と極む圖
仁明天皇御即位大祀
伊勢齊宮及建野々宮
小野篁夢小閻羅王宮へ到る圖

良峯宗貞詠哥遺世條
文德天皇御即位
惟喬惟仁の御位争ひより大内相撲の圖
清和天皇御即位
伴善雄犯罪流刑の條

陽成院御即位
野見病新當麻蹶速と力競べの圖
春彦是善俱感奇夢
陽成院意釣殿君御製
異形の月のと並べ釣殿の石と麗ふ圖
光孝天皇御即位
行平須磨の浦あて松風村雨小戯る圖
清和上皇御登霞
都良香得鬼神奇句
羅生門小於鬼神都良香が詩と詞の圖
醍醐天皇御即位
時平乱行奪叔父妻條

菅家系譜角觥盤觴之條
於良香宅菅公試射條
任病乱行閑居條
行平詠述懷歌被為謫條

菅公一時作十詩條
禁庭種々怪異の條

深草の帝の陵へ諸人群泰の圖
位争名虎良雄角觥條

皇統記圖會卷第一

朱雀院朝觀御幸
 三善清行贈菅公諫書
 三善清行天象と見て菅公の書と奉る圖
 仁和寺の法皇主上と諫めりとの圖
 菅公遺子道明寺木像
 菅公於配所詠詩歌
 菅公天拜山祈願并薨去
 菅平法皇築紫雙岡
 菅公筑紫天拜山を祈願しとの圖
 洛中天宮内裡雷火
 時平患奇病薨去
 太宰府天滿天神宮居の圖
 菅公贈官賜神号
 通計七十一條總標目畢

時平光等謀黜菅公條
 菅公得寃被謫西府條
 播磨曾根手枕松の事
 太宰府飛梅追松の條
 渡會春彦忠實死去條
 法性坊夢謁菅公亡靈條
 奸徒雷死法性坊行力條
 元定國菅根袁死洛中洪水條
 延喜帝御讓位四海太平條

扶桑皇統記圖會後編卷之壹上下目錄

上
 光仁天皇御治世
 奥州兵乱征將下向條
 金窪膽澤強勇力戰
 大伴益立敗軍の條
 於阿隈河宦軍与夷賊搏戰
 大伴益立不覺の條
 金窪兵太勇と揮つて京軍と敗る圖
 瑞雲禪師化度女達條
 金窪義心贈千敵曹
 菅内計畧安達燒敵柵條
 桓武天皇御即位

安達八郎忍術と以て牢獄と破り却て敵方へ降参る圖

東征使凱陣賞罰 不破内親王母子流罪條

宇佐八幡宮託宣并神傳 蝦蟇合戦怪異の條

山城國長岡郡經營 早良親王謫罪憤死條

早良親王の命と受て継人竹良密小種継と射る圖

築再新都造營大内裡 釋最澄開基延曆寺條

目錄終

扶來皇統記圖會後編卷之壹上

浪華 好華堂野亭参考

光仁天皇御治世 奥州兵乱征將下向條

人皇四十九代の聖主光仁天皇と申奉る天性帝徳を備の先朝の徳弊

政を改め賢を奉不肖と退け絶えと廢ると立万民を子の如撫恤

のひ宇宙昇平して四海波静かりる小世止むる女色の惑わし一女子の

故より東國小志ち不時の兵革起りたり其濫觴と尋る小室龜十年小紀

廣純とい人陸奥守小任せられて奥州へ下り國の政道を執行ひるが此廣純ハ

大納言兼中敷卿の孫從四位上紀宇美の息男を推勢重く個人も厚く

敬ひ尊びる小廣純元末徳を脩む權威を專小して我意の裁判多し且色

好む癖あり佐小奥州の住小伊治世名とい者ありて其本ハ蝦夷の嶋夷ハ



種類あり多し。生貨剛勇なる上頭者膽畧有るを。麾下小属する者追くま
くかりて數郡を領し勢強う多。此世大官兼て心をひて思ひ通ふ女あり。其
容色衆小勝也。都耻し風姿なり多。廣純傳きてるぬ意小あふれ度
く文を贈て口統くれども女此世大官が思ふとを憚りて一度も返更とせず難面
ての過しれを廣純殊心を悩す。是世大官が有史小廉るぬなるべと。家
人小余とて一夜暗小女が夜潜入せ有無を言せと理なく女と奪とせ我館へ
迎へる百般言を尽し口統くも流石浅うなる女心とてさも年月契り
此世大官の更とせ忘廣純の心小従ひ多し。廣純大不悦ひ女と電愛する更
他小異なり多。此世大官最愛の通妻成集取り心小燃し怒憤れども國司の
威勢小壓して奪返と更能くせし。時節と定規ひ此心と報せんものと
無念を隠して色小見まこと。多くの賄賂を廣純小贈り。祥と媚使ひれ

む廣純実小仗從せとと思ひ。心うち解り万端滿なく此世大官と商議し聊
も疑心なく何の要慎とせざり多。此世大官廣純を誑れとて独咲し。時を
窺ふ中一時廣純が麾下の諸士國政小就て諸方の郡縣別れ赴た廣純の
館をも無人かりたれ。此世大官須波待致する時節とせんたれと兼て隨身
せし野武士膽沢悪太郎金注兵太も強勇の溢者と先とて突竟の者二
百余人小武具させ夜中前後二隊小を廣純が館へひくと押寄先表門へ向
ひる膽沢悪太郎。百人小下知を傳へ倉平小松明を照し連一宿小喊を噴とあげ
表門を打破て我先と乱れ入る。廣純が家人們思ふよぬ不意の夜討小太
周障強動し。太刀よろよと舞た上と下とぞ及る。廣純も仰天とあがり必定野武
士山賊の属あり何程の更あらん蹴散せと下知し多。折節在番の武士無
人小在合せる衛士五十余人主の下知を承て太刀先と揃へち入者と散く小切拂ひ

門外追出を。膽沢悪太郎も味方を勵し。一切進んで敵を門内追込。如此互小
追つ返ら。討つ討つと挑む戦ひ。内皆大員金窪以下百余人。小て裏門を
歩破り。松明揮きて乱入。女童泣叫んで逃。迷入を情。あは荒夷も當を
幸ひ。此所彼所。小切仕。多。此大呂緒。率小下知。彼奪。一。女を生捕。と命。一
多。小。兵士。館の間。毎。を。尋。搜。遂。小。彼。女。を。搦。捕。多。廣。純。小。表。小。在。て
味。方。の。士。率。小。下。知。と。傳。て。在。多。小。裏。門。も。賊。兵。乱。入。せ。り。と。受。て。再。び。殺。死。十。人
余の家士を従へ。與へ。引返。と。と。小。端。かく。皆。大。呂。と。往。合。り。皆。大。呂。廣。純
と。小。小。より。眼。を。瞋。一。大。音。小。い。ふ。や。廣。純。你。此。國。の。守。る。大。任。を。蒙。り。お。か。仁
義。を。旨。と。せ。と。大。負。任。を。專。と。て。國。人。を。虐。げ。昔。め。刺。へ。我。愛。ま。を。奪。取。て。娯。樂
成。恣。小。と。る。不。義。無。道。言。語。日。漸。なり。故。小。國。人。恨。皆。死。我。小。勸。て。今。夜。你。を。討
し。む。る。所。なり。已。が。罪。己。を。責。む。と。觀。念。し。我。一。刀。と。受。て。冥。府。へ。赴。よ。と。言。ひ。し。ね。む

廣純。大。怒。り。思。と。ん。く。思。と。知。さ。る。人。面。歎。心。天。野。の。程。と。思。ひ。あ。る。を。ん。と
太。刀。抜。挿。し。て。取。率。て。る。小。皆。大。呂。も。望。む。所。の。妻。敵。と。同。く。太。刀。と。揚。て。一。往。一。来
戦。ふ。更。二。十。余。合。ひ。と。雌。雄。と。決。せ。さ。る。所。小。金。窪。兵。太。呂。矢。は。ぶ。く。兵。と。切
く。放。し。る。を。過。と。廣。純。が。胸。板。より。背。に。と。射。通。し。り。大。更。の。手。あ。れ。皆。も
堪。ど。苦。と。叫。び。仰。及。小。什。多。と。皆。大。呂。透。さ。と。走。寄。り。首。と。と。撞。ら。る。多
主。を。討。せ。り。残。る。即。黨。們。今。六。維。が。為。小。命。と。許。ふ。死。と。銘。く。賊。兵。小。り。合
刺。違。て。死。と。も。有。或。六。自。身。腹。搔。切。て。死。と。も。有。て。主。従。六。十。余。人。は。一。枕。小
討。死。し。多。と。哀。れ。た。る。賊。兵。も。五。十。余。人。討。て。手。負。ハ。等。る。小。違。お。れ。と。夜。討
小。全。く。勝。た。れ。賊。徒。們。大。小。悦。び。倉。粟。小。乱。入。り。金。銀。財。宝。箱。布。と。多。く。集。み
掠。め。館。小。火。を。掛。り。燒。立。勝。岡。を。揚。て。と。引。退。た。る。是。小。依。て。諸。民。大。小。殺。死
強。だ。東。西。南。北。へ。逃。走。り。泣。叫。ぶ。声。四。竟。小。震。り。許。かり。是。より。皆。大。呂。ハ。勢。ハ。壯

小たり。尚も野武士山賊を招れ聚り。要害の地小柵を構て楯籠り郡郷と
 犯し掠め恣に小横行して威を國中に奮ひたる。是れ依て隣國の守護國司
 大不該死都へ馳馬成きて急を告る。吏櫛の齒を挽か如し。時小此屋居彼
 回の愛妻と牢獄より縛索のせ曳出させ。眼を瞑して恥と睨み。やれ婦
 你年来の我恩義を忘る。よも廣純が心小従ひたる。世の鏡も言む。や己人
 小難面を人より己小難面と始不便を加し。小今日百倍と憎しと罵り。大刀を
 抜て心下と刺串を。女天小叫び地小叫び七瀬八倒して死し。此れ名ハ
 是を快しとち咲ひ其屍を野外小捨させ。其後國中の美色ある女人の妻妻
 とも言せむ。奪取て己が側室と。恣に娼樂て上見ぬ。龍鳥のく。不義の歡樂と
 ぞ究りたる。去程小都小東國より急馬の来る。吏引も切む。伊治此大國司紀
 廣純を攻殺し國中に犯して逆威を奮り。松々多小。光仁天皇發せしむ。

文武の百官を召れて御評議の上中納言継繩を征東大使と。大半を並立古佐
 美を副將軍とて軍勢九千余騎を授け。奥州の賊徒を征伐せしむ。己
 又安部家大と鎮狄將軍と出羽國を守り。められ。斯て東征の將軍定り
 たる。継繩益々古佐美と朝廷召る。右大臣と以て紹命を傳めり。今般
 奥州の兇賊國司と殺し。郡縣を侵して國中を擾乱し。你等疾く東國へ進發
 し。賊徒を討夷け。一國を平定せむ。忠戦を勵む。軍功を立る。軍紀
 録して。棒よ。平定の後其功小應じて賞禄と与ふ。三將此倫命と奉り。を
 て。廷上拜伏し。臣們勅命と首小頂て。東國小弛向ひ。命と抱て。軍戦を勵。未
 日小勝軍と奏し。も。啓奏し。禁廷を退出て。列位私邸小飯り。出陣の準備
 を整て。宝龜十一年四月下旬。各將軍裝花。麗小飾り。都と發足して。東國へ下
 リ。たる。禁廷より。東國へ。兵糧米と運送を。と。觸ら。させ。ひ。たる。

金窪膽沢強勇力戦 大伴益立敗軍之條

伊治此大員征東の官軍下向とすよとてついでに後黨の者どもも聚て軍儀を
なり。官軍の寄来るを路條の悪所難所の柵を構へ其往來の路を塞ぎ民
家と毀く楯と造り。富る者の米麦と奪取て兵糧小宛京軍寄来らむ微
塵ふせんと待くけり。就中白河の関の柵小些大官が西翼と憑切る。金窪兵太膽
沢悪太郎兩人を主将とす。七百余人を籠置くる。抑金窪膽沢兩人は身杖
六尺七寸小て力量万人勝と奔馬とを抑止。鹿角を曳衣まきり馬抄物
の達者多し。要害第一の柵を固めさせざるあり。去程小官軍は五月七日與つ
下著。陣營と構て三日の回軍馬休め。諸軍の評議。大伴益立と先陣と
紀古佐美と三陣と。三陣は大将藤原経縄と定めり。斯て兵馬も十分疲を休れ
む。先陣大伴益立一千騎小く押出ると小軍珍々見殿們速りと寄合勢の野武士

野盜の奴も何程の妻有た只一掃踏破れよと飽よて敵を縋り勇々進んで敵
の柵を押寄せる。逆茂木間粗小結所小大石を捨散す。暴くは備も無体なる
されむと思ふ違つど。あつ不便の夷賊どもも。由た支へて。麁金小あん夷乃
衣さよと一笑し。後陣の續く然も待合さむとひくと押寄鯨波と殺り楯を衝
くと弛奇く逆茂木技捨己小門際へ逼り歩破んとす。此時すは賊兵を驚と鳴と鎮
めて居らるる。敵の近く寄さる。城を奪り。勿心柵門を八文字小開た。金窪兵太二
百騎の士卒と率て駆出て出る。兵太が其日の軍装小ハ里華威の大鎧を著し。歟形
ちる三枚兜の緒と締四尺余の野太刀小三二寸の太刀小文字小帯添長八寸小余る。鹿
毛の弱の太く逞り。小鏡鞍置てゆると踏さ。一丈余の鐵鉞去げちる。棒と真向
小揮掃し。真先小まき大喝し。寄兵小駆出てくる。小に従ふ兵卒も喊を殺り得物と
携て我先小と切る。思がけめ。寄兵大。小周障し。急小退り。備とまんと。問も

かく兵太馬と躍して敵中割入當に幸ひ寄と不運と率て落すとおど或は首を
 胴へ収手入も或は肩背の骨を確れ人も命と今もさるあ。主將如此あれは徒卒も是
 小筋まされ曳く声て京軍と雜多々。官軍多勢われも人金津が強勇の辟易一
 始の廣言ふも似と散く小乱と多々兵を折れて這く益々の陣へ逃歸りされ。金津
 手始りとして手勢を引く柵へ退れ入る。益々先手の敗北を見て大に怒り新兵
 を入替再び柵を攻んと押寄とさる。白河の城戸を開く只二騎馬と乗出と敵
 あつと京軍其軍壯衣をふれ藤縄目の鎧小獅子の前立物さる兜を猪首小
 着たり。就鳥の羽の征箭山の如く刺る腹を負黒漆の長た太刀小刀短刀佩添
 握太たる重藤の弓小服小搔込八寸小余る奥州黒の物小鍔掛地の鞍置く
 ち乗たり。京軍彼ハ難かるんと見る。彼武者大音小是へ出さる某ハ膽沢悪
 太郎と呼きて坂東八ヶ國小てと三才の小兒小まで名を知さる者さる京方乃

人ハいハ名を知さる。今度京軍下向あつた。伊治此は京頼まれ金津と
 某此白河の柵を預つて固めたり。某們が命有人限りた。何十万騎の御勢
 ありとも得たを通り。手並の程を御覽お入ん。奥州鍛冶が鍛ひる鋼一
 竹助進せぬ。我と思ん人を出て受てん。と呼り。京軍是とて悪
 た敵の廣言ふも思ふも。前の金津が勇銳小は怖と我立向んと。少
 時鳴と鎮て在る。稲城早手といふ者極く矢取疾の達人あれを緒金
 押分と陣頭馬と乗出。高声小嗚呼さる。大言ふ。你们は。鳥夷の捕矢と鳩
 雀の類小と。真の武士の身小。矢種の有ん限り射よ。我悉く手小様て見
 と。と言返。それを悪太郎大に怒り重て回答も及ど。七人張の強弓小笛竹の
 矢。矢打番で忘る。矢絞て兵と切放。直小の矢をむけて切放。其
 其矢次早の更更小見届る。稲城ハ弦音を度て起る矢と早く右手

小握り留る小間ゆかりの矢形来つ胸板の正中と背骨ひく射通るふど何六
 以く堪ぬれかち馬より真逆小嚏と落二言と言ど死たりる是をみて京軍
 の中より平郡武植田郡司十名勇夫といる者當の敵道きいと三士ひく馬と拍
 て並出膽沢一人を三方より取巻て撃てくをえを悪太郎心得たりとて投捨て
 太刀抜梓三人を對手ゆり右小峰左小拂ひ秘術を尽しと挑と戦ひきり柵とを
 是れを膽沢討まもて城門を固て二百人斗ちて出るを京軍も五百余騎めて
 け向ひ喚叫で攻戦此内小膽沢平郡武を一刀斬て落し及て刀小植田と續て討
 んとる成郡次もあつり者あれを急小身と沈りるふと膽沢余り強くして空を
 切馬の尻小余されて平頭を越大地倒と落りりり郡次勇夫得る賢といく馬
 より起下卸重て押り首と掻んとるとる小膽沢剣及て起立兩人を両手小抓
 カ小任と敵中嚏と投中れを勇夫と士卒二人を撃仆し斤足を折りりり小

逃延て命をうり助りりり郡司ハ投られて落る小首の骨と突折り即死し織
 小膽沢が平止人間業とらんをりり悪太郎又馬小抄乗太刀と電光のりり小
 うて敵中と縦横無尽小蒐回リ敵を討吏敷を考らんと是小依て京軍膽沢一
 人小斬りりり隊移りと乱れ浮足小かりれ賊軍の勢かひを増奮地暗小蒐立
 々々大伴益益先隊の戦ひ難義たりと中是を救んと残る五百騎を二隊と
 押出さんとる所小思もよぬ山陰より金窪兵太三百騎中殺出す益益が勢ハ
 不意の敵小周障先隊と救ふ追なく金窪が勢と喚叫んで戦りりり此時賊方
 と敵の後陣小鯨波の中を成りりり金窪の勢の敵の後陣(伐入)と知柵小残る
 二百人も伐り出膽沢が勢と二隊小成り敵を追捲るふとて浮平京軍樵の
 ぐ敗走り益益陣(あれ)る益益と敵軍襲ひくるごと心得合の叶いりり
 一番小馬と拍て逃出たりりり浮平も是小誘れ惣敗と成て散りりり落行と賊

軍六勝ふ乘て追伐し思ひくお取高名々。官軍の二陣紀古佐美先陣より
 追ふ後れく押出さるる大伴益立初鹿の合戦小伐負しとて半途お勢と
 止め先陣の動止を合さしむるお益立が勢惣敗軍小及しと回報さる間も
 早先陣の敗率追く敗来りたる由古佐美勢左左右引きて逃来り味方
 通し敵追来らば横矢射んと積兵を揃矢襖を造て待りけりされども
 賊方敵の新兵左右小おきて隊小謀有なるや長追おせと敵追捨て手
 狂く柵引入る此日賊方討取者二百余級お及びたる手始よと悦びて勝興と
 發り京軍八兵を多折る手負數多ふて大い軍威と損りたる
 於河隈河官軍と夷賊撰戦 大伴益立不覺之條
 大伴益立敵を狂んて不覺の敗軍たるを大将延繩氣色と損り益立と呼
 出し軍慮の足さると責叱り又兩三日軍儀小且送り此度ハ紀古佐美小一千五

百騎を授て先陣と定め大伴益立小一千五百騎を授て二陣と謀を定む五
 月十三日の未明よりおきて金鼓を鳴り喊を造り軍威を示しと押寄たる敵も
 柵の櫓より防矢と射下し茲と大隻と禦るるも京軍八兼て手苦と定め二隊旁
 ろれを二隊入替り二隊渡るを三隊入替り漸く小新兵を以て息も吐ず射れ
 どもおどお此と油すむと攻むるも賊方小勢とひ矢種及力方さるるも
 京軍遠小城門堀を打破り大水のこえ入如攻入るも二陣の大伴益立小一千
 五百騎も引續て攻入るも賊將金窪膳次も其防がたを知手勢と引
 ぐ柵の後門より落ちる具小依て紀古佐美白河の柵を乘取勝喊を發り
 大い勇々大将の本陣(斯と報りたるも)延繩大い悦び惣勢と率く柵入
 古佐美が手柄を賞美し其日白河小宿陣に翌日柵を焼拂てお味方ハ不案
 内敵ハ地理を知れむ伏兵を以て不意を伐んとさるる小あむとて行前物

見を出惣勢八千余騎を十隊と首尾相佐る備をかりて國府まで押到り玉
造小館城を構て本陣と賊徒殊伐の謀を高く商議する賊將皆六百京軍
玉造小館城を構て筆をひきしとて釣出と一當めて味方の武勇と示せよとて
金窪兵太栗原源三兩小五百人全授て先陣と。膽沢悪太郎松前荒鯨二入
小五百人を授て二陣と賊將皆六百二人を従ふ三陣小進と。別小田理五郎と
の者小五百人を授て遊軍となし合戦の況合を見て敵の本陣と劫り大將延繩
茂射取よとて同道より向せし。斯手賊軍隊伍を整へ六月五日の朝柵を布
きて玉造へ向ひる。官軍方も疾より敵の軍を洩すて其準備をたし。然も
六月五日往亡日なる小賊徒是を不知出張とる八已と滅亡を求る前表也と始ひ
紀古佐美小千五百人を授て先陣と二陣大伴益三小千五百人大將延繩二千
余騎を領と三陣となり。残る二千騎玉造の城を遺して田守を衛らせざる去

程小雨陣押進へ阿隈川にて互小往合川公滿へ使小屯を立鉦太鼓を吹響を吹て
双方軍威を示し合両陣喊を發り矢合の鏑を射違へ矢軍と如くする。然も敵味
方の飛箭の横まづ雨の如く矢叫の聲々山河響たをきき久も疎かり京
方の逸雄の面、斯目倦れ業て何時まで矢種を費をふれ。川を渡り雌雄に決
せよと口小呼り物物の兵三百余人川を颯と渡り勢と喚て切てくる。金窪が勢
得るや應と迎へ合と切結び追つ返ら挑む。紀古佐美是を足り味方討を
續やと下知する小徒の残る二百人河小川へ飛入り大浪の如く川を渡り陸上
るや不敵軍小代てくる其勢の猛烈なりをえより小勢の賊兵三増倍の大軍小
捲りまればあらい兼て三町引退くわを京軍勝小乘り追まき切進くる敵兵
ハ野武士山賊の集勢ひて兇勇多れも軍の進退不鍛煉なれ。足並揃ひ隊伍と
乱れ弥敗色小る。然も金窪注兵太と京將古佐美を討んと百人を従へ路を



金谷庄兵太



世麻呂賊將
金谷庄兵太
勇と揮て
京軍成
責破る

金谷庄兵太

世麻呂賊將

廻つゝ古佐美が旗本馬成躍せて半てうを。例の條鉄棒をち揮く人も馬と
嫌ひなく半殺とわど古佐美が勢大に殺れた二人のち悩され七の者數あつて
閑れ靡て乱まると古佐美も金蓮が饒勇に敵が馬と拍て避退れた積兵の射入
小命じて矢續射させられも兵太更ともせど鏝を傾けて尚も縦横に蒐廻り
敵をち殺すも十七八騎小及びる小のち流竹前赴未つて兵太が咽論わらきと大
更の手あれも尋常の者あつて其後落馬とたれ無双の剛兵あれも瘡す敵
軍を滅ぶも半廻る是に依て京軍鬼神の怖く皆遠く逃散今八千小敵一
人もたれも残る於て兵太一息なく吐れ矢疵の痛堪えられ即黨添川鬼太と一者
の佐つて戰場を退れも大将如是かれを残兵に強え左往左往取せり
京方の二陣大伴益益六遙の川下より渡り敵の後より半を栗原源三前後の敵小
途を失ひ進退究てあや射るやんえも小賊方二陣膽沢悪太郎五百余騎を

魚鱗小備煙嵐と巻て強まり悪太郎真先馬を進めて益益が勢小會教もなく
撃てうを當る益益小切て落とせど麾下の士平們も是も勵まされて敵をちさる
是も殺れて益益が勢強えられも栗原源三の心地膽沢と二隊小成て敵小
あつる小依京軍足場を追搦せまけ渡りてんえりも大将経繩ハ敵方の旗
色の整りへ入て心怒り斯許の小敵に勝得る更やおと隊を押し出さんする
とろ小賊方の遊軍田理五郎何國より廻りてん五百余騎小経繩が陣の後より
伐りて依経繩殺たわす事と下知と身と防がせ國岳源吾門苗六郎小十
騎を授て先陣の味方と佐め自身八千騎小て田理が勢と挑と戦ひも國岳
兄弟二人心を一致し一千騎を引率馬成真先小進り川を渡り味方の勢小
弛加りたれも古佐美益益が勢小氣と較平又敵を追立たるも末小勢の賊
軍數刺の戦ひ小疲り上敵新兵加りてち散る小半を半負戦先數

あつと戦ひつゝ難義かりきり小賊方の大将伊治皆之守千崎の新兵と九隊と
 つちけりあけつゝ敗れ味方の士卒と左友と拂はせ大い喊を發せ龍表来る
 土煙を揚ぐ近來り敗れる味方の士卒と左友と拂はせ大い喊を發せ龍表来る
 京軍小三合此大目先小三合人守の太刀と電光の如く閃く敵を斬る
 薙如くあれ京軍其太刀風小辟易と三段引退る去程小敵味方入乱は此處
 小乘も彼所小追回敵陣の味方の陣とかり討つ討つ戦(程小川原乃四
 面二場の修羅道となり馬煙天を曇り足青八地小車なき敵味方の死尸
 累くして屠所肉の如く流る血汐の溜りて紅葉と浮り小異る(此處
 屬の棋戦なり此時惣大将継繩八田理五郎が勢は難なく捲り至敵將五
 郎と討取れ残軍八方敗れ半小敵も無かりきり(此勢小川を渡
 して味方小力と添んとせしとる小大伴益三此大石が為小散小はれ馬を拍
 て川を越継繩の陣(近來りて大将小向ひ日もとや夕陽小及び味方の手負戦

先も多く戦ひ疲れていむ合戦は是追つて軍を収め強し今日小限る戦ひ中
 もいす夜小入か敵の地理小精しく恐れ退口難義小いなりと言ふ小
 繩勃然として大い怒り是は臆病未煉あるやまれ糸の合戦は已小味方の勝色
 あり今賊軍の疲を伐むん何日勝利を得る期ありん早愆の卒止せしむ
 とと叱り耻らるるおど益三赤面と口の裡小ぶち戰場へ向ふと鈍玉造
 と引取る此時賊方大軍の京勢小憚り小敗色をえたる小益三が半勢は
 のんきなる小周障し主人如何と戦死せざる小小遊るこ敵小向ふとせしむ
 強きなる此大目膽沢栗原以下是をえり味方と励し浪波敵ハ引色あり
 と此機を絶むと代やと呼り宗徒の者も真先小まき狼狽る大伴が勢と花
 微塵小ちまをれ戦ひ疲き賊兵是小機を撃つ勢を半俱小敵を追捲る
 小益三が手の者いよく強は乱は散り小敗れ我先小川を渡りりる是小

依て残る京軍も俱小臆病神小誘はれ崩さる引るも賊兵之倍勇々追至
 く思ひく小敵を討高名を顕る古佐美國岳兄弟身とあせり味方を
 制し通ふ大軍の引辛かひ更小耳もけを敗走を其回小古佐美ハ敵辛
 小取囲まれ已小討るると古佐美宗徒の即黨引交と敵と追拂ハ辛と
 主成助け引行る大将経繩ハ味方の敗軍とて齒を切り是益益が不覺より
 勝奮軍小肩をもど安らねと怒られれも今更奈何とも為さけ無念なる
 と小玉造を引る此日の戦ハ小軍の戦死一千余人矢疵太刀疵を受あひハ
 手脚を折れる者千二百余人及びれ三軍大ハ貌氣と屈皆是大伴
 益益が臆病より更起ると弘らね者ハ多る此大呂小軍ハ勝て大ハ
 勇々勝喊三度揚て己が柵ハ凱陣一軍と點檢も小田里五郎を先とて戦死
 四百余人千負二百余人と記るれも敵の首と得る更二千級小向れ京軍

心小足むとい驕り大ハ酒宴を催て勝軍とぞ祝る

扶来皇統記後篇卷之一上終

名古屋
大曾根 矢野平兵衛藏版之内佛書目

宗門無盡燈論	二冊	法華經	八冊	壽量品經	一冊
槐安國語	五冊	同要品	一冊	般若心經	一冊
同骨董稿	二冊	般若理趣分	一冊	同訓讀	一冊
禪門寶訓	二冊	金剛般若波羅蜜經	一冊	諸陀羅尼	一冊
禪林句集	二冊	首楞嚴神咒	一冊	地藏經訓讀	一冊
四部之錄	一冊	三經合本	一冊	御嶽穴權現經	一冊
毒語註心經	一冊	觀音普門品	一冊	大道神祇大祓	一冊
碧巖集	十冊	同訓讀	一冊	神道中臣祓	一冊
六祖壇經	一冊	半僧坊大權現經	一冊	同六根祓	一冊

